

4章 実施の効果とその評価

授業評価アンケート、学校評価アンケート、SSH 事業にかかわるアンケート調査を実施し、事業全体の効果の検証と評価を行う。SSH 事業にかかわるアンケートについては、高校1年次生132名、高校2年次生120名、教職員32名（全体の64%）において無記名で実施した。

1 SSH 事業にかかわるアンケートの結果

(1) 全体的な傾向

全体（1年次生、2年次生、教職員）の結果から、全ての項目において50%以上が、SSH 事業によりそれぞれの力が伸びたと実感している。項目別に見ると、探究する力（項目①～④）、他者を理解し協働する力（項目⑦、⑧）、科学技術系人材育成（項目⑫）は、70%以上が伸びたと実感しており評価が高い。特に、②情報収集する力、⑦他者と対話し理解する力、⑧協働する力は大変伸びたと実感している。これらは、未来創造プロジェクトなどの実践を通し、課題解決するための探究的な力が身に付いたためであると考えられる。また、アクティブラーニング（知識構成型ジグソー法）の授業や、SS 総合探究Iにおいてグループ内で対話を通し協働的な学びを行ってきた結果育まれたものであると考えられる。さらに、科学技術系人材育成については、今年度行われた事業が科学技術について理解を深め、興味・関心を育出するために効果的であったと概ね評価している結果である。

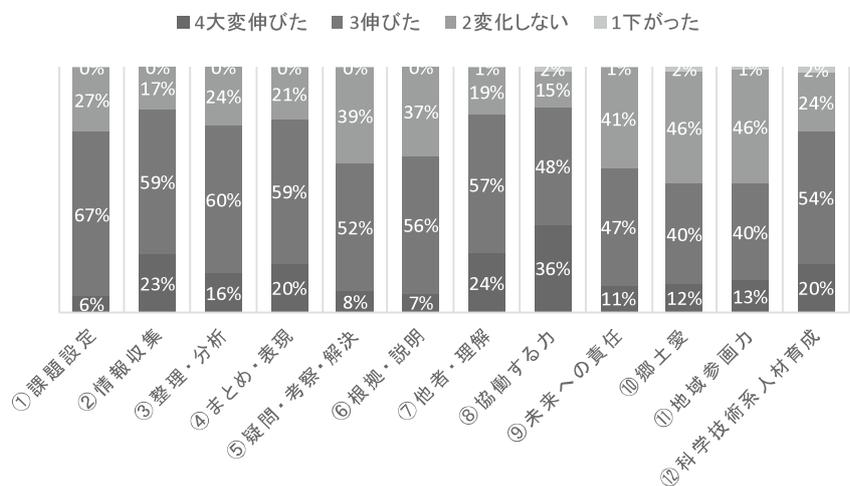
他方、科学的思考力（項目⑤、⑥）、未来への責任に関する態度（項目⑨）及び、地域への貢献に対する態度（項目⑩、⑪）に関しては、伸びたと感じる評価は60%前後であり、より低い項目となった。科学的思考力については、もともと生徒自身が根拠を持って論理的に説明することを苦手としていることや、活動においても疑問に対し見通しを持って考察し解決する場面が少なく、科学的に思考する態度が不足していた分、科学的に思考する態度が定着しなかったと考えられる。今後は、科学的に思考するプログラムを増やしスキルを定着させることや、外部との連携の中でより高い科学的思考力を育成したい。未来への責任に関する態度や地域への貢献に対する態度については、

平成29年度 SSH事業にかかわるアンケート

*これまでのSSHの事業を振り返り、以下の質問についてあなたはどのように変化したと思われますか。下の評価基準に従い④③②①で評価しマークして下さい。④ 大変伸びた ③ 伸びた ② 変化しない ① 下がった

質問	評価
1 探究する力 ①課題を設定する力 ②情報収集する力 ③整理・分析する力 ④まとめ・表現する力（プレゼンテーション力）	④③②① ④③②① ④③②① ④③②①
2 科学的思考力 ①身近な自然から問題を見つけ、見通しを持って考察（実験・観察）し、課題を解決する力 ②根拠を示し論理的に説明する力	④③②① ④③②①
3 他者を理解し協働する力 ①他者と対話し、理解する力 ②仲間と力を合わせて活動する力	④③②① ④③②①
4 未来への責任に関する態度 持続可能な未来をつくらうとする態度	④③②①
5 地域への貢献に関する態度 ①郷土を理解し愛する気持ち ②地域参画力（地域のために役立つとする気持ち）	④③②① ④③②①
6 科学技術系人材育成 科学技術について理解を深め、興味・関心を育てるために本校のSSH事業は有効であるという評価。	④③②①
7 SSHの取り組みについて良かったことや大変だったことを、自由に書いて下さい	

図1 SSH事業アンケート結果(全体)



各事業において、どのようにこれらの態度に繋がるかを明確にすることができず、生徒たちが実感することができなかつたと考えられるので改善が必要である。

学校評価アンケートにおいて、保護者からの SSH 事業に関するコメントはなかつた。SSH の取組については、ホームページ等や SSH 通信で周知しているところだが、まだまだ浸透はしていない。次年度に向けて、未来創造プロジェクト発表会や校内で生徒の SSH にかかわる活動を参観していただけるように実施方法や日時を配慮し、告知方法を改善するなどの工夫や積極的な呼びかけを行う必要がある。また、効果の有無を確認するために学校評価アンケートにも具体的に評価項目を設け、変容を確認したい。

（２）生徒間および生徒と教員間で評価の差が顕著な項目について

【科学技術系人材育成】

生徒と教職員間で最も評価に差異が見られた。これは、教職員は SSH 事業全体を通して判断しているのに対して、特に 2 年次生においては今年度 SSH にかかわる活動は、未来創造プロジェクトのみであり、さらに、すでに文系理系のコースに分かれている中での実施であり、課題研究は行ったものの、テーマ設定も含め科学技術というキーワードには結び付きにくかつたと考えられる。1 年次については、SSH にかかわる多くの事業や、年次一斉に実施したアカデミックツアーなどを行ったことにより評価が高かつたと考えられる。

【科学的思考力】

生徒に比べ教職員の評価が低かつた。特に、未来創造プロジェクト合同発表会後の職員アンケートからは、課題研究のテーマ設定から結論に至るまでに、論理の飛躍があり、研究やまとめ・発表の過程において根拠が明確でないものが多く、科学的な思考に結び付いていないとの指摘が多かつた。他方、2 年次で評価が伸びた要因は、年間を通して取り組んだ探究活動（未来創造プロジェクト）により、課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現の過程を経験することにより、変容を実感できたことによるものだと考えられる。次年度に向けて科学的に思考するプログラムを増やしスキルを定着させることや、1 年次においてもミニ課題研究などを設定し科学的な思考力を高めたい。

【まとめ・表現力】

各年次による差異が認められた。これは、2 年次生が未来創造プロジェクトにおいて、中間発表と合同発表において、全体に対し 2 度の発表の機会があつたのに対し、1 年次生は、各事業においてクラスやグループでの発表会は行ったものの、全員が発表できたわけではなく、一部の生徒のみの発表にとどまってしまったことが一因として考えられる。また、運営指導委員の先生からは 2 年次においては、インクルーシブな状態で全員が発表することにより効果があつたとの評価を得た。次年度に向けて 1 年次においても、全員が発表にかかわる状況や、より多くの参加者の中で発表やプレゼンテーションの経験を積めるようにしたい。

図2 生徒及び教職員のSSHアンケート結果の比較
（大変伸びたと伸びたの評価を合わせた%）

